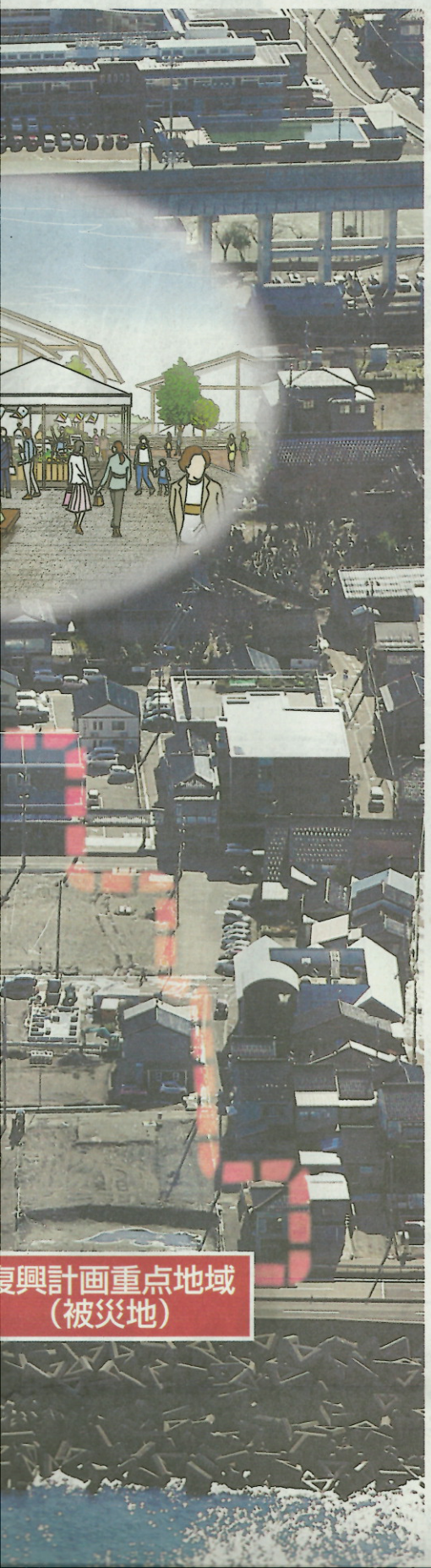
一歩



地元産ブランドを発信

「むすびいと」メンバー 今井栄子さん

越の丸なすジャムやヒスイのプレート、ストールを兼ねた藍染めのおくるみ―。糸魚川産の素材や技を取り入れたこれらの品々は、来年2月に東京で開かれるギフトショーでデビューを飾る。共通ブランド名は「むすびいと」。人の思いや過去と現在などさまざまなものを結ぶという意味に、糸魚川の「糸」を重ねた。

むすびいとは昨年、糸魚川商工会議所が地元の奴奈川姫伝説にちなみ「女性による女性のための地域ブランド誕生」を目指して始動したプロジェクト。12人のメンバーの一人で、糸魚川市でスポーツ用品店を経営する今井栄子さん(43)も、透かし彫りの木にヒスイをあしらったピアスやペンダントなどを試作中だ。

今井さんは大学卒業後にUターンし、亡き父の跡を継いだ。名前刺しゅうやプリントなどの高い技術力で注文は堅調だが「少子化で本業の先細りは明らか。糸魚川を発信でき、自分自身も楽しめる新しい商品を生み出したい」とプロジェクトへの参加を決めた。

全国の先進地を視察し、ブランドの方向性を仲間と議論していたころ、大火が起きた。直接被災してはいないが、「『思いをつなぐ』というブランドのコンセプトを積極的に全国の人たちに発信し、復興を後押しできればうれしい」とほほ笑んだ。

デビューを控えた「むすびいと」の試作品について仲間と意見を交わす今井栄子さん（中央）＝糸魚川市

楽しみながら支援継続

「春だわっしょい！」実行委員長 大川直男さん

長野県飯綱町で毎春開催しているイベント「春だわっしょい！」の収益金を全国の被災地に送っている。ことしは約53万円を糸魚川市に寄付した。実行委員長の大川直男さん(43)＝飯綱町＝は「親切の押し売りにならないよう、楽しみながら支援を広げたい。何をしたらいいか分からない人には『参加するだけでいいんだよ』と呼び掛けている」と話す。

毎春のイベントでは物販や食ブースを出し、各店の売り上げのほとんどを義援金に充てる。これまでも東日本大震災

いとがわ復興マルシェに参加した「春だわっしょい！実行委員会」の大川直男さん＝11月18日、糸魚川市